

一、はじめに

3. 11東日本大震災により未曾有の被害を被った東北を始め、東日本地域の水土里ネット及びその会員と、全国の水士里ネット仲間が、情報と意識を共有し、早期の復旧・復興に一体となり取り組むとともに、防災対策を含めた今後の農業農村整備事業の更なる推進を確認するため「復興へ 土地改良の底力を 頑張ろう東北、頑張ろう日本」をテーマとし、平成23年10月20日、仙台国際センターに於いて、3. 11東日本大震災復興支援水土里の集い ～ 第34回全国土地改良大会 in みやぎ ～ を開催いたしました。



全国土地改良事業団体連合会（全国水土里ネット）、宮城県土地改良事業団体連合会（水土里ネットみやぎ）が主催し、岩本農林水産副大臣、村井宮城県知事、奥山仙台市長をはじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、全国各地から約1,150名参加のもと開催することができました。

二、オープニングアトラクション



オープニング歓迎アトラクションとして、奥州・仙台おもてなし集団「伊達武将隊」の演舞で来場者を歓迎しました。

仙台開府の祖伊達政宗公を支援、強い絆で結ばれた武将、家臣が四百年の時空を超え、「仙台藩を支える米作りはよい土壌作りと田んぼが命」であることを演舞とともに現代の人々に言上しました。

三、水土里の集い式典

式典に先立ち、今回の未曾有の大震災により亡くなられた方々に哀悼の意を表すため、参加者全員による黙祷を行いました。

集い式典では、まず水土里ネットみやぎの伊藤会長が開催県とし



て、「今回の3・11東日本大震災は、地震、津波、原子力発電事故、さらには風評被害も加わり、過去に経験のない四重苦の大震災となりました。宮城県におきましては、沿岸部で津波により多くの尊い命が失われ、住宅やライフライン等の生活基盤、そして農業・水産業・商工業等の産業基盤が壊滅的被害を受けました。農業、土地改良関係では、農地面積の一割と5千ヶ所の土地改良施設が被災し、とりわけ沿岸部に広がる藩祖伊達政宗公から営々と築かれてきた仙台平野を中心とする美しく豊かな水・土・里の景観が一瞬にしてガレキとヘドロの山と化してしまいました。このような中で、国をはじめ県や関係機関のご支援、そして被災者の懸命の取り組みにより、復旧・復興に向けた槌音が響き始めています。この間、全国の水土里ネットの皆様には、心温まる様々なご支援を頂き、復旧、復興に大きな励みとなりました。改めて本日ご出席の皆様をはじめ、全国の水土里ネットの皆様にご心より感謝とお礼を申し上げます。この東北・東日本の地を、日本を、3月11日以前の美しく豊かな国土に再生することが我々に与えられた最大の使命であります。今こそ土地改良がその先頭に立ち、農と国土を以前よりさらに素晴らしいものに復興させることを、本日ご出席の皆様全員で確認しようではありませんか。現在、復旧・復興に向けて全力で取り組んでいますが、今後とも皆様方の力強いご支援、ご協力を切にお願い致します」と挨拶をいたしました。

続いて、全国水土里ネットの野中会長が主催者として、「日本の豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものです。被災地だけではなく全国の農業・農村は、過疎化、高齢化、担い手不足などの課題が山積しています。特に農業水利施設の老朽化は、農村地域の災害が今後増加するのではと危惧されているとこ



豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものです。被災地だけではなく全国の農業・農村は、過疎化、高齢化、担い手不足などの課題が山積しています。特に農業水利施設の老朽化は、農村地域の災害が今後増加するのではと危惧されているとこ

るです。先人たちが幾多の災害をバネとし、知恵と労苦を結晶させ、現在まで継承してきたこの農業・農村を荒れ果てさせることは許されません。我々水土里ネットは、健全な農業・農村を子孫に渡す責務を負っています。農業・農村を巡る厳しい現状に立ち向かい、農林水産省を始めとする関係機関の皆様と連携し、土地改良の底力を遺憾なく発揮しなければなりません。互いに手を取り合って農業・農村の未来に向けて前へ前へと進みましょう」と訴えました。

この後、来賓の岩本農林水産副大臣より挨拶を頂き、次に開催地を代表して村井宮城県知事と奥山仙台市長から歓迎のことばをいただきました。



続いて、土地改良事業功績者表彰が行われ、農林水産大臣表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰16名、全国水土里ネット会長表彰47名が表彰されました。



報告会では宮城県の水土里ネットわたりの三品理事長と星総務課庶務係長が被災状況を報告し、復興への取り組みについては、津波浸水区域の水土里ネットを代表して水土里ネット名取の松浦事業課長から、除塩の手法およびその後の水稻の生育等について発表がありました。そして、除塩田から収穫された米が除塩の指導を頂いた農林水産省の岩本農林水産副大臣に贈呈されました。





引き続き被災報告を、岩手県からは水土里ネットいわての大和農村振興部事業調整監、福島県からは水土里ネット南相馬・水土里ネット鹿島町の渡辺理事長、茨城県からは、水土里ネット新利根川の高城理事長に報告していただきました。



宮城県農林水産部の高橋次長からは、県内太平洋沿岸の津波の高さ、到達距離、浸水区域等の被害概要と、農地・農業用施設の災害復旧の基本的な流れを基に復興の理念と復興のポイントについて説明がありました。



基調報告は、東日本大震災による、農地・農業用施設の被害状況及び復旧についてと農地と水を最大限に利用した安心、安全な農村づくりをメインとした農業農村整備の展開方向について、農林水産省農村振興局林田

次長から報告がなされました。

基調講演は、宮城大学理事（兼）大学院食産業学研究科長であり水土里ネットみやぎの理事でもある加藤徹先生から、農業基盤の被災の特徴及び今後の農業の復興について、切迫している土地改良区の運営問題も含めた講演をいただきました。



その後、水土里ネット名取の伊藤秀利さんと小島ますみさんが「我々水土里ネットは、今こそ壊滅的被災を受けた農地や土地改良施設の早期の復旧・復興に組織の総力を挙げて取り組みましょう。頑張ろう東北・頑張ろう日本」と力強く大会宣言を行いました。

最後に、水土里ネットみやぎ千葉副会長が閉会の挨拶を行い、3. 1 1 東日本大震災復興支援 水土里の集い ～ 第34回全国土地改良大会 in みやぎ ～ は、盛会裡に無事閉幕しました。



四、併催パネル展示



集い会場内にパネル展示コーナーを設け、大震災で被害を受けた岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の被災写真及び除塩の取り組みを掲示し多くの方々に見て頂きました。

五、視察研修



集いの翌21日は、野蒜・州崎地区（東松島市）、高砂南部排水機場（仙台市）、閑上排水機場（名取市）の視察研修が行われ、3コースに262名の参加がありました。特に、野蒜・州



崎地区の水田108haは浸水した上、地盤沈下も重なり一見

海と思える状態が今も続いている惨状を目にし、担当者の説明に熱心に耳を傾けていました。

六 おわりに

今回の大震災についての情報、意識を共有し、早期の復旧・復興に向けて一体となり取り組むとともに、防災対策を含む今後の農業農村整備事業の更なる推進を確認するために行われた集いが、無事盛会裡に終わることが出来ましたことは、農林水産省はじめ、東北農政局、宮城県、仙台市、会員であります県内市町村、水土里ネットの皆様、関係団体皆様のご支援、ご協力の賜であり深く感謝申し上げますとともに、こころより御礼申し上げます。